

令和 3 年 第 8 回大河原町教育委員会定例会会議録

- 1 招集日時 令和 3 年 8 月 20 日（金）
- 2 招集場所 大河原町役場 第一会議室
- 3 出席委員 舟山幸枝委員、一盃森広志委員、丹羽宜博委員、小山明子委員、鈴木洋教育長
- 4 説明のため出席した者
佐藤勝弘教育総務課長、佐藤圭一生涯学習課長、山家一博学校教育専門監
- 5 開 会 午後 1 時

6 令和 3 年第 7 回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。
一盃森委員、小山委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告について

なし

（2）専決事務報告

なし

8 議 事

議案第 27 号 大河原町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況についての点
検及び評価について

生涯学習課長及び教育総務課長から説明する。

一 盃 森 委 員	基本計画の主な具体策 61 と冊子の具体策の番号が一致していない。
佐藤（勝）課長	評価は令和 2 年度だが、概要版は令和 3 年 4 月に改訂したものだったので ずれが生じた。
丹 羽 委 員	絵本と学びの部屋の来館者数年間 7,623 人。目標値 15,000 人。環境や設 備があるので、生かして目標値に届くように工夫が必要なのではないか。 知らない子供もいるのではないか。
舟 山 委 員	コロナの影響で星の観察会が中止になった影響もあるのではないか。
佐藤（圭）課長	コロナの影響もあったと思うが、これまで事業の広報不足があったのでは ないかと感じる。良い事業なので、PRを工夫するように話をしている。

一 盃 森 委 員	絵本と学びの部屋で行っていることを知らなかった。人材育成を目に見える形でPRした方がよい。いきいきプラザの利用方法がわからない等。コロナになってから回覧版もこなくなり、情報を得る手段が減った。
佐藤（圭）課長	やはりPR不足が参加人数に繋がってないのかと思う。職員や司書だけでは力が及ばないので、図書館ボランティアを新規募集等して図書館に関わる人材も増やしていければよい。
小 山 委 員	ゲーム携帯を利用している子供達が大幅に増加している。視力の低下や学習にも影響するのではないかと。学校の図書館でも駅前図書館をPRして欲しい。
山 家 専 門 監	図書については、中学生については利用する子が増加したが、借りていない子もまだいる。昨年4月5月の臨時休校中に自宅でスマホを利用している時間が増加したことも影響しているのではないかと。
鈴木教育長	国の図書館調査において発表されたが、町の学校の昨年の読書量は、南小、金小は、国の平均を超えているのが、大小は若干低い。中学校は全国より少し低かった。本を借りて読む習慣、読書量が多い人は主体性が高いとの情報がある。本を読む機会がゲームに取って変わると良い。
一 盃 森 委 員	肥満の子が気になる。健康教育として、自分自身の体を知ることが必要なのではないかと。コロナの時期だからこと、もっと力を入れて基本的な生活習慣の確立に取り組むべきではないかと。
丹 羽 委 員	朝のラジオ体操を取り入れてはどうか。
舟 山 委 員	大河原町の肥満度が高い。骨格や美味しいお米など、食生活があるのではないかと。家庭に協力を貰って。
一 盃 森 委 員	学校だけではできないので、コミュニティスクールなどで、話題にして積極的に取り組んで欲しい。
小 山 委 員	家庭にも周知して欲しい。学校の取り組み、家庭への啓発。今は特別な時期と理解して、自分からすすんで体力をつけないといけないと思って欲しい。
鈴木教育長	（委員全員に諮って）可決する。

9 その他

(1) 教育長報告

1 非認知能力の育み方法と評価法（『先端教育』2021.8）

非認知能力も生かさない社会で通用しない。非認知能力を伸ばすにはどのようにすればよいか。結論は簡単で身近なところにある。学習指導要領の評価の観点は3つあるが、学びに向かう力・人間性、情緒の評価が非認知能力になる。対話的な学びの中でコミュニケーション能力や相手を思いやる心を意識して指導することによって、非認知能力が育って

いく。幼児教育の遊びの中で形成される。大人になっても非認知能力を伸ばすことができる。すべての教育活動の中で意義づけをもって取り組ませることも大事だと思うし、知らない間に身につく能力でもある。

2 生徒指導

ヒトは「いじめ」をやめられない（中野信子）

オキシトシンから発生する物質やセロトニンの物質が過剰になったり、減少したりすると、いじめに走ったり、不安を抱えたりするのが人間の特性である。いじめを回避するには、不安を抱える子にイベントは通過点と伝えたり、別な楽しみを与えることが必要。

3 発達障害

(1)「大学教授、発達障害の子を育てる」（岡嶋裕史）

国の調査ではクラスの6.5%が発達障害と言われている。親は特別支援学級に入れたい、普通学級に入れたいといろいろな考え方があるがどうしたらよいかなど、公平、客観性をもって書かれている。障害をもつ子の親が普通学級に入れてもらいたい理由として、普通学級に入って周りの友達に刺激を与えてもらいたいと願いがある。しかし、学ぶことがたくさんあるのに、一緒に学ぶことを否定してしまう親も出てくる。難しいところ。

4 学力向上

(1)学級全体で協働的に学ぶために（笠井健一）

協働的に学ぶことの大切さ。先生は子供の発言をどの様にひきだすか。

(2)「子ども学力データサイエンス」（田端健人）

大河原町の子供の学力をまとめたもの。最初はダメだけど伸びた子と伸びなかった子がいた。一時的な楽しみに流されてしまう子は段々落ちていく。未来志向でこれからがんばるぞという子は伸びている。非認知的能力がかかわる事例。学校間格差はそんなにない。丸山校長時代は素晴らしい取り組みをしていた。

5 子供の命を守る

国内で起きた事故について

(1) 給食での事故

(2) 飲酒運転による事故

(3) 災害発生等による児童生徒の安全確保

(4) 熱中症予防の原則

6 その他

(1) 修学旅行、社会見学等を実施する上での留意事業

新型コロナが増えてきているが、修学旅行を一律に中止にすることがないように。感染対策を充分に取りながら行って欲しい。

(2) 公立学校等職員表彰（優秀職員・優良職員）推薦について

3人推薦しようと思っている。

(3) 令和2年度宮城県児童生徒の健康課題統計調査（肥満傾向）

小4男子と中3男子以外はみんな肥満。

(4) 金ヶ瀬中学校オンラインによるオーストラリア交流

(5) 大河原中学校「マイ・タイムライン作成を学ぶ」

洪水の時どのような行動計画をするか。

(6) 金ヶ瀬小・中学校「英語」研修会

ジョイトークによる研修。

(7) 学校運営等研修会「学校を支える力」

竹田幸正先生による講演。

(8) 中学生「まちづくり夢・未来会議」

非常に熱心に話し合われた。学校で自分たちの意見もまとめてきていた。

(9) 「日本・世界の昆虫展」

昆虫の絵が290点。985人来場した。

丹 羽 委 員	985 人の来場者がいたのにあまり人が映っていない写真だった。
佐藤（圭）課長	3 日間の開催になってから最高の来館者だったのではないか。実際に昆虫に触れることができたのがよかったのでは。
舟 山 委 員	非認知能力は幼少期の指導が大切。幼稚園や保育園に入園当初は、子供に自分のことは自分でやらせるのが良いが、親がついてこれずにやってしまう。3 か月もたつと親も理解するようになり、子供自身にさせるようになる。小規模保育園も多いので、保育所の先生にも非認知能力の大切さ、幼少期の教育の大切さを伝えて欲しい。
鈴木教育長	幼保小連絡協議会などで幼少期の非認知能力の育て方を話していきたい。
一 盃 森 委 員	教育長は、認知能力と言われる学力の一部を図る全国学力テストなどの目に見える数字だけでなく、合わせて非認知能力も大切にする先生はこれまでなかった。今後も大切にしていきたい。人として人材育成していく中で大切。ポートフォリオ評価が大事。これからも3つの観点で評価していかなくてはならない。
丹 羽 委 員	学びの環境は大切。家庭環境で親がどのように愛情を注いで子供を育てるか。先生も愛情をもって子供と接するのが大切だと感じる。待つ時間も大切。
小 山 委 員	オンラインによるオーストラリアとの交流がよかった。町内の学校間でもオンラインで交流ができればよいのではないか。中学校の先生から、小学校の6年生にメッセージを伝えるなども、中学校に行く楽しみになるのではないか。
一 盃 森 委 員	いよいよ2学期が始まるがコロナの状況。現時点での取り組み状況。学校に登校させない保護者がでてくるのではないか。オンラインによる学習を進すすめて欲しい。

(2) 課長報告

教育総務課長

修学旅行の延期について

大河原町陸上競技会の中止について

新型コロナウイルス感染症対策の再確認

丹羽委員の表彰について

生涯学習課長

巡回小劇場の中止について

移動昆虫展を行う

10 次回教育委員会の開催日程について

鈴木教育長 | 次回は臨時教育委員会が令和3年9月17日（金）午後2時から開会を開催する。

11 閉会宣言 午後2時45分

令和3年9月17日

署名委員

署名委員